

中谷家住宅の現代的庄屋化をめざした地域資源の調査研究に基づく地区景観の修景 (石川県指定文化財「中谷家」及び周辺景観の保存・活用に対する調査研究)

指導教員 石川工業高等専門学校 建築学科 准教授 村田一也
環境都市工学科 助教 新保泰輝

参加学生 平果梨・齋藤彩乃・松本哲実・井村和馬・笹島克弥・桐澤良馬・熊野里穂・高山桃子・
布袋和樹・山本理裳(石川工業高等専門学校)

1. 調査研究成果要約

県指定有形文化財である中谷家住宅の建物について、昨年度に引き続き実測調査を実施し平面図を完成した。地域資源としての空家建物について、実測調査を実施し平面図を完成した。黒川地区調査としては以下の3点が成果である。祭礼調査ではキリコ祭りへの参加とヨバレの視察を実施した。建物調査では昨年度からの展開としてアンケート調査を実施した。修景調査では黒川地区を含む柳田地区に対象を拡げ、各地区の調査を実施した。

2. 調査研究の目的

一昨年度からの中谷家住宅の実測による建物調査研究と地域調査を通じた現代的庄屋としての活用計画で得られた成果を踏まえて今年度は、Ⅰ.「建物の調査研究の実施」とⅡ.「地域資源の調査研究の実施」の2点について継続的に活動した。

Ⅰ.については、継続調査として、中谷家住宅建物について一昨年度からの実測調査で得た、主屋と屋敷構え(湯殿、奥蔵・中蔵・塗蔵、離れ、奉公人部屋、通路、塀)の図面を基に建物平面図を完成させること、中谷家住宅屋敷地内の外構と庭の現状を把握すること、新規調査として、地域資源としての空家建物の間取の把握と理解、実測調査に基づいた図面描画を目的とした。Ⅱ.については、継続調査として、中谷家住宅の立地する地域の祭礼調査を通しての地域祭礼の実状の把握、地域の景観調査を通しての中谷家住宅建物と地域資源としての空家建物の相互補完計画、地域資源の再生・活用による修景計画を目的とした。

3. 調査研究の内容

5月21日に地域の方々との顔合わせを兼ねた里山ヨバレ(田植え体験)への参加、8月1日～2日に1泊2日で能登町黒川地区での事前調査・打合せをおこなった。また、9月1日～3日、9月24日、11月5日～6日、11月7日、11月19日～20日の5回、能登町黒川地区での実地調査をおこなった。11月28日、12月7日の2回、能登町柳田地区での実地調査をおこなった。5月21日の参加学生は、平、齋藤、松本、桐澤、熊野、高山、布袋、山本であった。8月1日～2日の参加学生は、平、齋藤であった。9月1日～3日の参加学生は、平、齋藤、松本、井村、笹島、桐澤、熊野、高山、布袋、山本であった。9月24日の参加学生は、平であった。11月5日～6日の参加学生は、平、齋藤、桐澤、熊野、山本であった。11月7日の参加学生は、平であった。11月19日～20日の参加学生は、平、齋藤、松本、井村、笹島、桐澤、熊野、高山、布袋、山本であった。11月28日の参加学生は、平、松本であった。12月7日の参加学生は、松本であった。

I. 「建物の調査研究の実施」

中谷家住宅の実測調査 [写真1、2]

8月1日に、一昨年度からの実測調査で得た主屋と屋敷構えの図面の整合性を現地で確認した。9月3日に、板間、廊下、縁の板目の寸法の計測をおこなった。11月5日に、8月1日の調査で見つかった修正箇所の寸法の計測をおこなった。

中谷家住宅屋敷地内の撮影 [写真3]

9月3日に、中谷家住宅屋敷地内の外構、庭を図面化するために、新保教員の指導のもと、ドローンを用いて上空から屋敷地内全体の写真を撮影した。

中谷家住宅状態調査

11月5日に、柱と梁の材種の調査をおこなった。11月19日に、柱と梁の寸法の計測をおこなった。

中谷家住宅変遷調査

11月7日に、中谷家住宅についての古文書の調査と棟札の調査をおこなった。古文書の調査では、中谷家住宅が増築された際の資料がみつかった。棟札の調査では、小屋裏に入り棟札を探したが発見されなかった。

中谷家住宅の平面図の描画

昨年度までに描画された平面図について、修正箇所の実測値と板間、廊下、縁の板目の寸法の実測値から平面図を修正し、中谷家住宅建物についての平面図が完成した。

中谷家住宅の諸室の配置構成、各室面積

今年度の実測結果として、主屋、屋敷構えについて描画できた。主屋：434.3 m²、湯殿：18.3 m²、離れ：36.8 m²、通路：68.1 m²、奥蔵：32.8 m²、中蔵：31.4 m²、塗蔵：53.5 m²、奉公人部屋：72.9 m²、塀：107.6m

空家建物の実測調査

8月2日に、実測調査のための野帳を作成した。9月1日に実測調査をした。実測調査では、柱の寸法・位置、壁と建具の厚さの計測をおこなった。9月24日は計測箇所の補足調査をした。

空家建物の平面図の描画

実測値を用いて、空家建物の平面図を描画し、主屋についての平面図が完成した [図1]。

空家建物の諸室の配置構成、各室面積

実測結果として、主屋についての描画ができた。ポタバ：6.8 m²、土間：39.7 m²、便所：5.1 m²、台所（1）：21.1 m²、台所（2）：5.0 m²、食事場：12.5 m²、玄関：3.3 m²、小間：6.4 m²、座敷（1）：10.1 m²、座敷（2）：16.6 m²、茶間：20.7 m²、仏間：12.8 m²、家事室：11.0 m²、寝間：19.0 m²、縁：8.1 m²



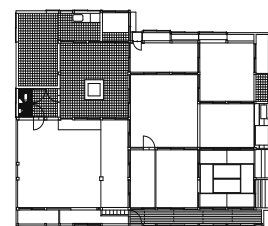
[写真1] 縁の板目の実測調査の様子



[写真2] 実測調査の打合せの様子



[写真3] ドローンを用いた
中谷家住宅屋敷地内の撮影の様子



[図1] 空家建物の平面図



[写真4] 里山ヨバレの様子

Ⅱ. 「地域資源の調査研究の実施」

里山ヨバレ（田植え体験） [写真4]

5月21日に、顔合わせを兼ねて里山ヨバレ（田植え体験）に参加した。午前は、今年度の調査内容、スケジュールを確認し、その後、地域の方々と昼食をとった。午後は、黒川地区の方々の協力のもと、田植えを体験した。



[写真5] ヨバレ視察の様子

黒川地区各家庭でのヨバレ視察 [写真5]

9月2日の晩に、グループに分かれて地域の4家庭にお邪魔してヨバレを視察した。地域の方々との交流を深めながら、各家庭においてヨバレ風景を記録した。ヨバレ風景の記録として、ヨバレ会場（建物、部屋）、料理、実際のヨバレの様子を撮影した。



[写真6] キリコ祭り参加のためのワークショップの様子

キリコ祭り参加のためのワークショップ [写真6]

9月2日の午前に、キリコ祭りでキリコをかつぐ際に用いる肩当てを作製した。

神社祭礼視察 [写真7]

9月2日の朝に、キリコの組立てに参加した。9月2日の夜に、白山神社にてとりおこなわれた祭礼に参加した。祭礼では地域の方々とともに学生も参加することによって、キリコを動かし、白山神社まで移動した。9月3日の午前に、白山神社にて本祭りを視察した。



[写真7] キリコ担ぎの様子

黒川地区調査

11月6日に、黒川地区の全36家庭を対象としたアンケートを配布した。11月20日に、配布したアンケートの回収をおこなった。

アンケートとして、設問形式のものと地図の二種類を配布した。アンケート地図として昨年度作成した調査地図を使用し、昨年度の調査では得ることができなかった生活面での情報を知ることが目的とした。建物と生活様式の関係について採取するため、建物について日常の使用用途や祭礼時の使い方に関する設問を用意した。

柳田地区集落調査 [写真8]

11月28日、12月7日に、柳田地区において建物配置の目視調査を実施した。柳田地区23字をまわり、各字の集落全体と典型的な配置の建物を記録した。典型的な配置は『柳田村史』より得た情報をもとに以下のように設定し、記録対象を選定した。

- ・母屋、厩、蔵があるもの。（できれば母屋と厩が廊下でつながれたもの。蔵はなくてもよい。）
- ・前面に水田、背後に山林があるもの。



[写真8] 柳田地区集落調査の打合せの様子

時国家の視察 [写真9]

11月19日の午前に、国指定の重要文化財である上時国家・下時国家を視察し、架構や間取についての知見を得た。



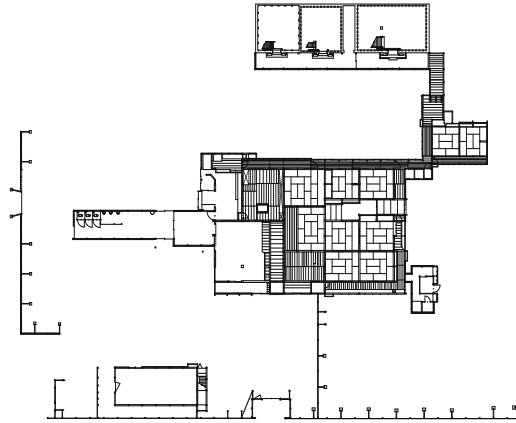
[写真9] 時国家の視察の様子

4. 調査研究の成果

I. 「建物の調査研究の実施」として、①昨年度までに描画された中谷家住宅の平面図と、今年度の中谷家住宅の実測調査により得られた、修正箇所の実測値、板間と廊下と縁の板目の実測値を基に、中谷家住宅屋敷地内の建物の平面図を完成することができた。②地域資源としての空家建物の実測値を基に、空家建物の主屋の平面図を完

成することができた。③中谷家住宅建物と地域資源としての空家建物について、諸室の配置構成、各室面積の現状を把握することができた。

II. 「地域資源の調査研究の実施」として、①ヨバレ視察、神社祭礼視察を通して、中谷家住宅の立地する地域の祭礼の実状を把握することができた。②黒川地区の建物が生活様式にどのように結びついているのかを調査し把握することができた。



[図2] 中谷家住宅建物の平面図

5. 来年度の調査研究計画

一昨年度、昨年度、今年度を通じて得られた実測データから中谷家住宅の主屋および附属屋の平面図が完成した。中谷家住宅については、庭木や池、石畳、石垣、濠など外構を含めた配置図の完成をめざし実測調査を続けることが必要である。また、今年度得られた地域資源としての空家建物の平面図を基に、来年度はこの建物について活用を検討していく。

今後は、中谷家住宅については文化財の視点から、より詳細な調査（変遷調査、架構調査、古文書調査など）を継続する。

調査対象、活動範囲を黒川地区、柳田地区へと拡げ、これまでの成果を活用し、新規課題として地域団体との連携を強化しつつ、能登地区における文化の継承・発展をめざすことになる。

6. 調査研究に対する地域からの評価

村田ゼミによる調査研究活動も3年目となる今年度は、初年度からの学生が皆卒業して新たなメンバー構成でしたが、秋の祭礼には、ゼミのOGが顔を出してくれたことが印象的で、良い関係が構築できたと思います。その際には、東家、首田家、川崎家、池田家の4家庭でのヨバレへの参加や、担ぎ手不足で動かせなかったキリコをゼミ生が参加する事により動かすことができ、活気のある祭礼となり喜んでいます。

建物調査の研究では、中谷家住宅の活用を中心とした活動が目されたこともあり、今年度、建造物として国指定文化財への検討が始まりました。これまでの建物調査資料がタイムリーに役立ちます。地域課題である空家の調査は、地域の家の灯りを消さないために、これからも、空家の利活用に積極的に取り組んで頂ければと思います。